

令和5年度(2023年度) 学校評価総括表 【伊丹市立伊丹小学校】

Table with 10 columns: 教育目標, 重点目標, 主要施策, 施策目標・基本施策, 重点項目, 具体的施策, 達成目標, 自己評価, 成果と課題, 改善策, 学校関係者の評価. The table is divided into sections for '知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成' and '学校教育'. It contains detailed descriptions of educational activities, assessment results, and future plans.

学校関係者評価総括
校内研修について、その内容や実施方法を担当が主体となって工夫を凝らした形で実施して、教職員が主体的に取り組んでいることで活気が伝わっていること、また、そのような取組を継続的に行っていることで、教職員自身が課題意識を持って日々の教育活動に取り組む姿勢が見られる。また、子どもたちの多くが落ち着いて学校生活を送ることができているが、これは伊丹小学校区の家賃の高さによる部分も大きいように思う。
一方で、伊丹小学校は特別支援学級に在籍する児童をはじめ、支援を要する子どもも多く、また、不登校児童の増加など、学校における問題は多様化、複雑化しており、現在の人員では十分な支援体制を講ずることは非常に難しいのではないかと感じる。
教職員の働き方改革の観点から、ペーパーレスやICTの推進をはじめ、学校単位での取組だけでなく、システムでの導入など、市単位で抜本的に取り組む必要があるのではないかと感じる。

次年度に向けた重点的な改善点
若い教職員が多く、活気にあふれる反面、経験豊富な教職員が不足することで教職員の資質向上に向けた取組を継続的に取り組んでいく必要がある。
また、支援を要する児童が多いことを踏まえ、市教育委員会に対して協力を求めるとともに、組織的な支援体制の構築を進めていく必要がある。
さらに、地域とや家庭との連携については、他校の先進的な取組を参考にしながら、地域活動への進出や教職員の参画・協働と、それに向けた発信を行っていく必要があるのではないかと感じる。
また、子どもの安全確保に向け、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの両面から、教職員の資質向上に向けた研修を行う必要があると考える。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った